

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第40週（9月30日～10月6日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 減少続くも昨年同時期より高いレベル」

第40週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,274例であり、前週比3.0%増であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.55、3.27、1.47、0.82、0.77であった。

RSウイルス感染症は前週比8%減の695例で、大阪市北部7.15、大阪市西部5.00、南河内4.94、堺市4.26、北河内4.19である。

感染性胃腸炎は14%増の640例で、南河内5.63、大阪市北部4.92、大阪市西部4.67であった。

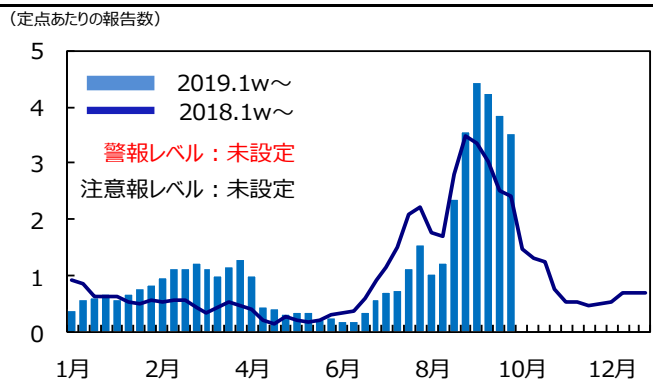
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2%増の288例で、中河内2.50、南河内2.25、大阪市西部2.22である。

手足口病は3%減の161例で、南河内2.13、北河内1.26、大阪市北部・大阪市西部1.00であった。

伝染性紅斑は26%増の151例で、泉州1.55、南河内1.19、大阪市北部1.08である。

インフルエンザは3%増の93例で、定点あたり報告数は0.31であった。大阪市西部0.71、北河内0.62、大阪市北部0.47で、昨年同時期より、やや高いレベルが続いている。

RSウイルス感染症



インフルエンザ

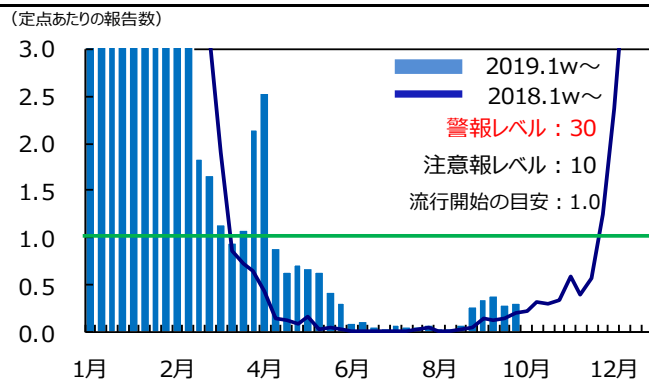


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第40週9月30日～10月6日）

第40週の順位	第39週の順位	感染症	2019年 第40週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第40週の 定点あたり 報告数	2019年第40週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	RSウイルス感染症	3.55	8%減	2.43	1歳_36%
2	2	感染性胃腸炎	3.27	14%増	3.00	1歳_12%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.47	2%増	1.74	5歳、10-14歳_16%
4	4	手足口病	0.82	3%減	0.91	1歳、2歳_24%
5	5	伝染性紅斑	0.77	26%増	0.25	4歳_23%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.31	3%増	0.21	10-14歳、20歳以上_18%

第40週のコメント

～百日咳～ 生後3か月からの予防接種が重要

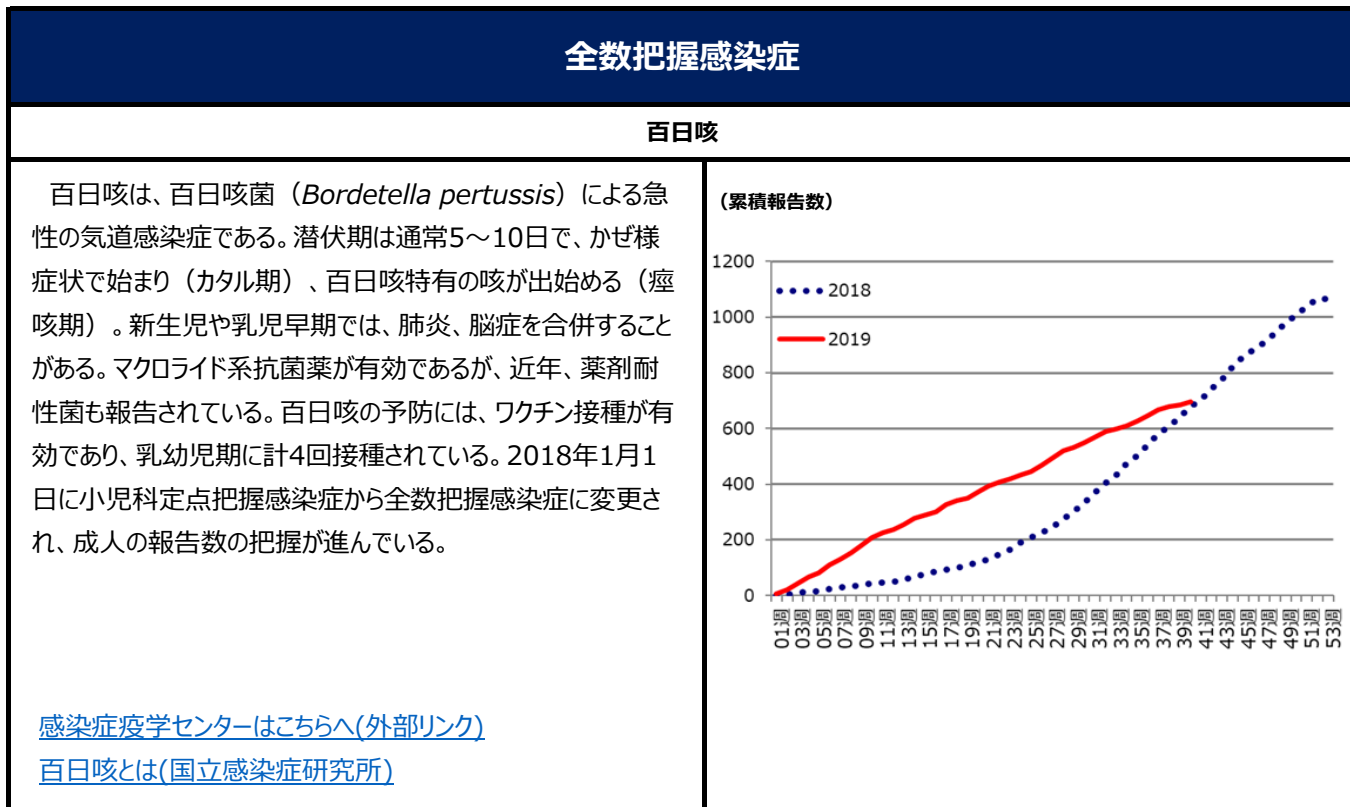


表2. 大阪府全数報告数（2019年 第40週9月30日～10月6日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています）

	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5	1	1	1				2		165
4 類感染症	A型肝炎	1								1	21
	日本紅斑熱	1					1				5
	レジオネラ症（肺炎型）	2					1	1			97
5 類感染症	アメーバ赤痢	1					1				58
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		1					1		49
	侵襲性肺炎球菌感染症	3				1				2	202
	梅毒	10		2		3				5	810
	百日咳	10	2				1	1	2	4	695
結核 (2019年8月分)	結核 新登録患者数：138名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 54名) (府内累積報告数 1,121名、内 肺・喀痰塗抹陽性 439名)										

(2019年10月8日 集計分)